

平成24年8月(夏)号

発行：三重耳鼻咽喉科 荘司邦夫・坂井田麻祐子

津市観音寺町 445-15

Tel:059-228-0100 Fax:059-228-0133

ホームページ：<http://www.miejibika.com/>携帯サイト：<http://www.miejibika.com/i/>

＜耳がおかしい？ 聞こえのトラブル いろいろ＞

耳が聞こえにくくなる病気は、色々あります。

ある日突然聞こえなくなる病気や、徐々に聞こえにくくなる病気、聞こえのトラブルを抱えて来院する方々は毎日必ずいらっしゃいます。聞こえにくい理由も、原因も様々です。

今回のみみより新聞では、当院で診察することの多い病気の一部をご紹介します。

* ある日突然、聞こえなくなる・・・突発性難聴

ある朝起きると、雨も降っていないのに片側の耳からザーザーと音がする。テレビや電話の音が、片耳だけ聞こえにくい。何となくふわふわする・・・突発性難聴はこのような症状から始まります。名前の如く、ある日突然起こるというのが、この病気の特徴です。原因は、ウイルス感染や、血液の流れが悪いこと、ストレスなどが言われていますが、未だはっきりとした原因は分かっていません。聞こえの程度は人それぞれですが、片耳が全く聞こえなくなる人もおられます。

治療は、飲み薬を中心に使いますが、程度のひどい人や、飲み薬で良くならなかった人では、点滴治療をすることもあります。聞こえの神経(聴神経)が炎症を起こしてむくんでいると考えられており、このむくみを取るためにステロイド剤を使用

します。その他、神経のまわりの血の巡りを良くするお薬(循環改善剤)、神経の再生を促すビタミン(B12)も合わせて使用します。治る場合もありますが、少し改善したところで止まってしまう、元通りにはならない場合や、全く効果が見られない場合もあります。通常、人生一回きりしか起こらない病気だと言われていしますので、反対側になることはごくまれです(ないわけではありません)。

注意しなければならないことは、治療が遅れると治らないことが多いということです。症状を感じてから、出来ればすぐに、無理でも1週間以内には受診をし、治療を始めることをお勧めします。2週間以上経つと、炎症を起こした神経が硬くなり始め、薬が効かなくなる恐れがあります。

また、減多にないことですが、聴神経に良性腫瘍が出来て、この突発性難聴と同じような症状が出る場合があります。ですので、突発性難聴の方には、念のため頭部のMRIをお勧めすることがあります。万が一、腫瘍が見つかった場合は、専門施設へ紹介をしています。

* 耳が詰まる、音が響く、ゴーゴー言う・・・

急性低音障害型感音難聴

先ほどの突発性難聴のように、急に聞こえの変化が起こる病気ですが、聞こえる音のうち、低い音だけが聞こえにくくなる病気です。突発性難聴よりも頻度は多く、当院でも1日に何人も来院される日があります。

この病気の原因もはっきりはしていませんが、「内耳」という聞こえを司る器官が水ぶくれのようになっているのではないかと考えられています。同じ内耳の水ぶくれを起こす病気に、「メニエール病」というめまいの病気があります。メニエール病も、主には低い音の難聴が出る病気です。ただ、メニエール病は、同じように聞こえが落ちていても、めまいの症状を強く感じ、この低音障害型急性感音難聴は、耳のつまり感、まわり

の音がうるさく響くといった、聞こえの症状を強く感じます（専門家の中には、メニエル病と同じ病気という方もいます）。

診察していて感じるのは、ストレスが溜まっている方、睡眠不足気味の方がとても多いということです。今の世の中、ストレスフリーでは生きていけません、まじめで頑張りすぎてしまう人はこの病気を起こしやすい印象があります。生活環境が急に変わったり、身内の不幸など、ショックな出来事の後にかかることもあります。

治療は、突発性難聴の時と同様、ステロイド、循環改善剤、ビタミン B12 を用いますが、これに加え、内耳の水ぶくれを取るために用いるお薬（イソソルビド：利尿剤系のお薬）を併用します。苦くて飲みにくい水薬ですが、効果的です。先ほど述べた、メニエル病にも治療薬として用います。

この病気の注意点は、繰り返すことが多いということです。毎年なったり、1ヶ月に1回、2回と繰り返す人もあります。片方の耳だけに繰り返す人が多いですが、毎回起こる側が異なる人もあります。突発性難聴よりは治りやすいことが多く、治療をしなくても、1週間くらいで自然に治ることもあります。ただ、2週間以上経過すると、その後治療を行ってもあまり良くならない場合がありますので、何となく耳が詰まる感じがし、数日変わらなければ受診をして頂くとよいでしょう。

* 意外に多いです・・・耳垢栓塞（耳あかのつまり）

ある日突然聞こえなくなるので、突発性難聴かと思って慌てて来院される方があります。耳あかのつまりもあなどれません。普段軟らかい耳あかの人の場合、綿棒で掃除をし、少しずつ奥へ押し固めてしまっていることがあります。だんだん溜まってきますが、実は針穴ほどでも隙間があれば、聞こえの悪さはあまり感じません。ところが、シャワーの水が入ったりすると、耳あかがふやけて隙間がなくなり、とたんに聞こえなくなります。耳あかを少し取ってやると、すぐに聞こえが戻る、我々

も患者さんもほっとします。前の号でもご紹介しましたが、ネバネバタイプの耳あかの方は、定期的に耳掃除にいらっしゃって、このようなことがないようにしておかれるといいかもしれませんね。

* 風邪の後に起こります・・・滲出性（しんしゅつせい）中耳炎

この病気は子供に多いですが、大人でも起こることがあります。風邪を引くと、鼻の粘膜が腫れて鼻が詰まったり、鼻汁がたくさん出て鼻の奥に溜まったりします。耳（中耳）と鼻は細い管（耳管）でつながっているのですが、この耳管の入り口が鼻の粘膜と同じように腫れ、中が詰まってしまうと、粘りのある鼻水で管がふさがれてしまうと、中耳の中が陰圧状態となり、粘膜から水分がしみ出て溜まります。こうした状態を滲出性中耳炎と呼びます。

今まで述べた3つの病気に比べ、それほど急には起こりませんが、鼻が詰まったまま2、3日経つと起こってくる場合があります。風邪でなくても、アレルギー性鼻炎や、飛行機に乗った後、ダイビングをした後などに起こることもあります。治療は、まず鼻の状態を整えること、それでも改善しなければ、鼓膜に小さな穴を開け、溜まった水を吸い取ります。治療をすれば比較的治りやすい病気ですが、繰り返す方も多くいらっしゃいます。鼓膜にしばらく穴を残しておくために、細いチューブを鼓膜に刺しておくこともあります。それぞれの方の状態に合わせて、水を溜まりにくくする対策を取っていきます。

聞こえが悪くなる病気は、他にもたくさんあります。一般的に、難聴は治らないことがほとんどですが、ここにご紹介した病気は、数少ない、「治る可能性のある難聴」です。急に聞こえがおかしいと思われたら、なるべく早めにご相談ください。

（文責：坂井田）